

## 修 士 論 文 の 和 文 要 旨

大学院	電気通信学研究科	博士前期課程	システム工学 専攻
氏 名	菅野 道男		学籍番号 0 4 3 5 0 1 6
論 文 題 目	ユーザーインターフェイスにおける 新機能操作のための有効知識		
<p>要 旨</p> <p>現在、パソコンにおいてユーザーの作業を効率化するための様々な便利機能を搭載した新製品が開発されている。</p> <p>しかし、製品の開発者が提供する「便利機能」も、製品にあまり詳しくないユーザーにとっては「未知なる新機能」となって利用されない場合も想定される。そのようなユーザーが新しく提供される機能を利用できるようにするためには、それがどんな機能であるかを理解し、利用方法を習得しなくてはならない。それゆえ、ユーザーが新機能を理解し利用方法を習熟するまでの過程を把握することが重要でと考えられる。</p> <p>このような問題を狙いとして、被験者が今まで利用したことのない機能（以下新機能と称する）を操作するまでの過程をパソコン利用経験が様々な被験者に対して実験的に分析し、第1実験として新機能を操作する上での熟練ユーザー特有の利用知識（以下ノウハウ）を発見・抽出した。</p> <p>第2実験では、それらノウハウをパソコンの操作知識が少ないと思われる初級者に提供した際、どのような操作様態をとるか解析し、提供したノウハウが有効であるかを検証することを目的とした。</p> <p>第1実験で発見・抽出された3つのノウハウに対して第2実験でそれらノウハウの有効性を検証した。</p> <p>（1）メインメニューに対する知識</p> <p>ノウハウを提供した被験者は提供しない被験者よりタスクを完了できることが分かった。しかし、サブメニューの知識を提供しなかったため、タスク実行時間が長くなってしまった被験者もいた。以上のことより、メインメニュー、サブメニューを含めたメニュー全般に対する知識の提供が必要であったことが分かった。</p> <p>（2）ドラッグ＆ドロップの操作知識。</p> <p>ノウハウを提供した被験者は、アイコンを発見してからドラッグ＆ドロップによってアイコンを追加するまでの時間が短かったため、この知識の有効性が確認できたと考えられる。</p> <p>（3）右クリックの機能特性に対する知識。</p> <p>クリックの機能特性に対する知識を提供されただけでは、どの場所で右クリックを使用したらよいか分からず、必ずしもタスクを完了することができないことが分かった。よって、画面上の様々な場所で実際に右クリックを操作する経験も必要ではないかと考えられる。</p>			